

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。  
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (296)

## キューリって？

夕食後、タモツ君のおばあさんがおじいさんと話しています。

「先ほど、あなた、キューリって、おっしゃったわね。」

「うん。イウがユーになる例として、君が<sup>はにゅう</sup>埴生を挙げたから。」

「ハニフがハニューになるのはわかるけど、キューリはキウリ？」

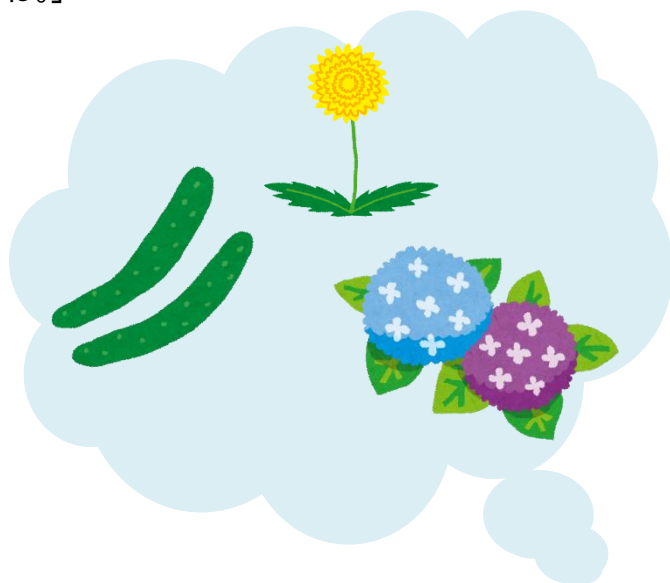
「そう。キウリ。」

「漢字で書くときは、<sup>コ</sup>胡の<sup>ウリ</sup>瓜、胡瓜じゃありませんか。」

「そう。<sup>コ</sup>胡椒とか<sup>ゴ</sup>胡麻とか、中国の北方や西方の地から渡来したとされる産物。」

「じゃ、コウリではありませんか。」

「あ、そうか。胡瓜は、<sup>オン</sup>音でいうと、コカ。日本語では、<sup>キ</sup>熟すと黄色になるので、<sup>ウリ</sup>黄の瓜ということで、<sup>ホ</sup>きゅうり。蒲公英が<sup>タン</sup>たんぽぽ、紫陽花が<sup>シヨウ</sup>あじさいになるような訓なのだね。」



<sup>きゅうり</sup>「胡瓜」「<sup>たんぽぽ</sup>蒲公英」「<sup>あじさい</sup>紫陽花」のように、漢字二字以上の熟字全体に、日本語の訓をあてて読むことを「熟字訓」というのでしたね。



【編集部注】胡瓜 コカ(音) きゅうり←きうり(訓)  
蒲公英 ホコウエイ(音) たんぽぽ(訓)  
紫陽花 シヨウカ(音) あじさい(訓)